

農に生きる

Challenge to My Dream



ハウスみかん生産者

やま だ たけ し

山田 剛史さん(36)

東伊豆町稲取在住。両親と共にハウスみかんや中晩柑など柑橘を2ヘクタール栽培。伊豆太陽地区ハウスみかん部会に所属する他、青壮年部伊豆太陽地区本部稲取支部長を務める。

胸を張れる品質と味を目指して

経験を力に変えて

大学卒業後、東京の大田市場に就職し、約11年半にわたり青果の販売を担当した山田さん。大好きな地元に戻って家業のミカン栽培を継ぎ、3年目を迎えます。市場に勤務していた時、トップブランド産地の作物やほ場を見た時は衝撃を

受けたと言います。「高品質なものを生産している産地では、作業水準が非常に高いのが当たり前とされる。その積み重ねが品質に直結していると知り、勉強になった」と振り返ります。現在はその経験を生かし、樹形の改善や老木の改植にも取り組みます。収穫までに長い年月を要する果樹だからこそ、苗木の段階から丁寧な管理を徹底。「今日の作業が数年後の品質や収量につながる。先を見据えて作業することを大切に行っている」と話します。

挑戦を支える両親の存在

山田さんの挑戦を支えているのは両親の存在です。剪定で枝を切りすぎてしまい実が付かず収量が少なかった時も、失敗を責めずに前向きな言葉をかけてくれたと言います。

「進路も就農も事後報告だったが、いつも自由に挑戦させてくれた。挑戦も

失敗も経験できる環境に感謝している」と笑みを浮かべます。長年の経験に裏打ちされた両親の仕事への姿勢に、学ぶことが多いと存在の大きさを改めて実感しています。

「楽しい」が原動力

自分で摘果や剪定をした樹が思い通りに実を付けた時、大きなやりがいを感じると言う山田さん。「好きな仕事なのでストレスは何も無い。どうすればもっと良くなるのかを試行錯誤しながら考えるのが楽しい」と笑顔を見せます。

さらに、青壮年部の仲間の存在も大きな原動力です。「東伊豆町はさまざまな作物の生産者がいるため、垣根を越えて学び合えるのが強み」と語ります。

今後の目標は「ミカンといえば、山田剛史」と言われる存在になること。まずは地元生産者の皆さんに認められたい」と意気込みます。市場で培った経験と挑戦への熱意を胸に、今日も真摯に栽培に向き合っています。

販売担当者から

山田さんは青果市場で培った経験を生かし、就農後は販売者目線の経営を実践しています。露地柑橘栽培では品種構成の見直しや園地の改良に取り組み、産地づくりを進めています。

ハウスみかん発祥の地である東伊豆町は、高い栽培技術で京浜市場などから高い評価を受けています。JAでは今後も生産者に寄り添った営農支援・販売を通じて産地の維持と生産者の農業所得向上に取り組めます。



第一共選場
つち や あき ひろ
土屋 明浩



艶やかに輝くオレンジ色の果皮は品質の高さを表しています。平均糖度は12度以上で、豊かな甘さと爽やかな酸味が調和した味わいです。静岡県の「しずおか食セレクション」にも認定されています。